

「 本邦における脳卒中急性期リハビリテーション診療の現状調査 」

○研究の概要

脳卒中急性期におけるリハビリテーションの実態を調査します。調査で得られたデータを用いて、脳卒中急性期におけるリハビリテーションの安全性、有効性を検証します。

○研究の目的と方法

目的

脳卒中の患者さんが、急性期病院で入院してリハビリテーションを受けることによって、合併症や日常生活動作の能力にどのような影響があるかを調べます。

方法

2025年8月1日から2025年9月30日までの期間に、熊本医療センターを含む日本全国24病院に脳卒中で入院した、18歳以上の患者さんについて、診療をした際の記録や検査結果をもとに統計学的解析を行います。

○本研究の参加について

参加により患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。患者さんの情報は、氏名、生年月日、住所等の情報を削除して、誰のものか分からないよう加工されたデータのみを扱います。研究内容に賛同されない場合は、登録しませんので担当医へお知らせください。

○調査する内容

診療の過程で得られた情報、検査データ、画像データを用います。項目は下記の通りです。

- ・基本情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、既往歴
- ・脳卒中診療の情報：脳卒中病型、脳卒中病巣の側、病巣部位、病巣の大きさ、脳主幹動脈病変の有無、脳卒中に対する治療内容、発症日、発症から来院までの経過時間、入院日、退院日、入院日数、脳卒中リスク因子（喫煙歴、飲酒歴）、発症前 modified Rankin Scale(mRS)、入院時血液検査(白血球数、ヘモグロビン、血小板数、CRP、アルブミン、Dダイマー、BNP あるいは NT-proBNP)、入院後14日以内のリハビリテーションの有無、開始リハビリテーションの施行内容、リハビリテーションの施行時間、リハビリテーションの開始時期(ベッド上訓練、離床訓練、歩行訓練、STによる嚥下訓練)、歩行可能となった時期、合併症発生状況(肺炎、尿路感染症、痙攣、起立性低血圧、深部静脈血栓症、転倒、褥瘡、出血性梗塞、水頭症、脳ヘルニア、病巣拡大、脳卒中、虚血性心疾患、神経症状増悪、その他重篤な合併症)、入院時 National Institutes of Health Stroke Scale(NIHSS)、入院時 JCS あるいは GCS、リハビリテーション開始時の Brunnstrom recovery stage(BRS、失語症の有無、半側空間無視の有無、嚥下障害の有無、認知機能障害の有無、その他の神経症状(失行、失認、視野障害)の有無
- ・退院時の情報：BRS、NIHSS、mRS、Barthel Index、Functional Independence Measure、Functional Ambulation Categories、転帰
- ・発症90日後の情報：mRS

○実施期間

研究対象期間：2025年8月1日～2025年12月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～2028年3月31日まで

○研究成果の発表

収集したデータは匿名化の後、データを統合して統計学的解析を行います。統計学的解析の結果をもとに、学会発表を行うとともに学術論文を作成し、学術雑誌に報告を行います。

○研究代表者

日本大学医学部附属板橋病院 リハビリテーション科 新見昌央

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 脳神経内科 幸崎弥之助

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 脳神経内科 幸崎弥之助

電話 096-353-6501